

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和元年11月7日（木）

2 確認箇所

- ・ 伐採木一時保管エリアM
- ・ 1 / 2号機共用排気筒（1 / 2号機開閉所前、8.5m盤から確認）

3 確認項目

- （1）伐採木一時保管エリアMの状況
- （2）1 / 2号機共用排気筒解体工事の状況

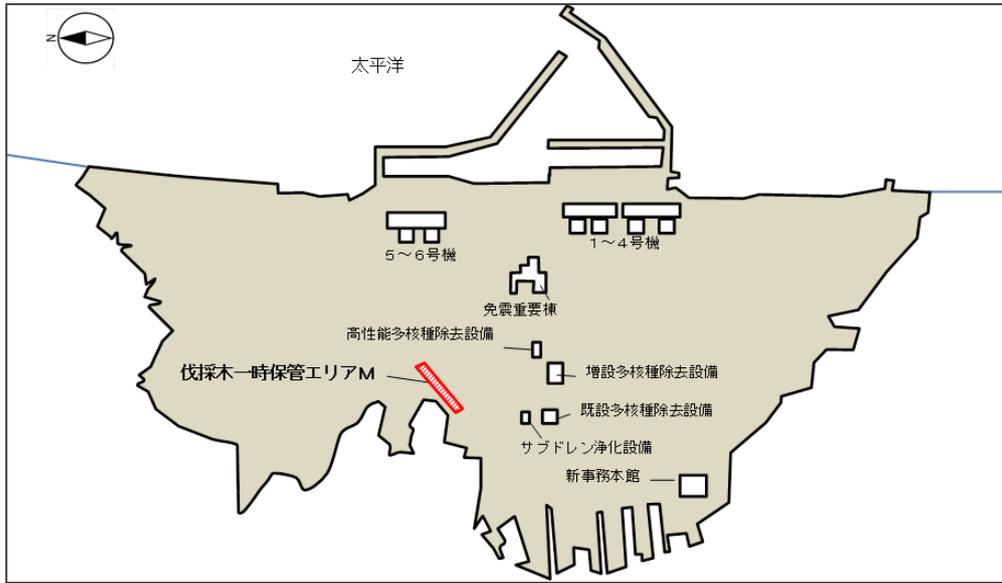
4 確認結果の概要

（1）伐採木一時保管エリアMの状況について

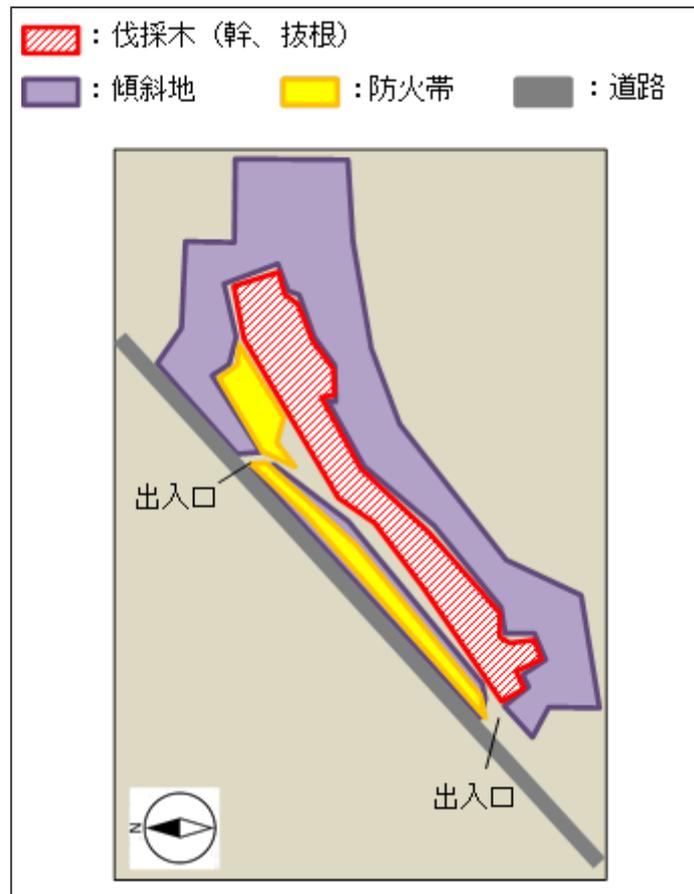
東日本大震災後、福島第一原子力発電所構内の敷地造成等によって発生した伐採木は屋外の伐採木一時保管エリア等で保管・管理されている。

伐採木の保管にあたっては、微生物による伐採木の分解・発酵に伴う火災のリスクを低減させるため、積み上げ高さの制限（5m未満）や内部温度の監視等の管理が行われていることから、伐採木一時保管エリアMの現況を確認した。（図1、2）

- ・ エリア北西側（道路沿い）には延焼防止対策として砕石を敷き詰めた防火帯が設置されており、エリア出入口（2箇所）付近には複数の消火用タンク並びに消火器が設置されていた。（写真1）
- ・ 積み上げた伐採木の内部温度を確認する温度計が複数箇所に設置されており、確認した範囲では温度は10℃前後であり、異常は見受けられなかった。（写真2）
- ・ 伐採木の積み上げ高さは5m未満を満足した状態で保管されていた。また、伐採木が雑草に覆われている箇所や伐採木の腐食が見受けられたが、伐採木保管場所周辺の一部は除草や清掃が行われていた。（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図2) 伐採木一時保管エリアM詳細図



(写真1)



(写真2)



(写真3)

(2) 1 / 2号機共用排気筒解体工事の状況について

1 / 2号機共用排気筒解体工事は10月27日から4ブロック目の解体作業が開始され、電線管等の付属品や筒身の50%まで切断が完了しており、11月6日から解体装置（鉄塔解体装置）を用いて、鉄塔（斜材）の切断が開始された。本日（11月7日）、予定されていた斜材8箇所（箇所）の切断作業が終了したことから、現場の状況を確認した。

- ・排気筒頂部付近の斜材中央部に切断痕が確認できた。（写真4）
- ・2号機原子炉建屋西側では、解体装置（鉄塔解体装置）の点検作業が行われていた。（写真5）
- ・東京電力によると、11月6日14時43分から斜材の切断を開始し、本日11月7日6時11分までに計8箇所（箇所）の切断を終了したとのことであった。



(写真4-1)
1 / 2号機共用排気筒頂部



(写真4-2)
斜材の切断部の拡大写真
(写真4-1)の黄枠部分



(写真5)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。